

指導マニュアル：模擬試験7「デジタル空間の境界線」

～現代的テーマを通じて「三体系」と「ジレンマ」を解かせる～

1. 指導のポイント

本問は、令和4年度（技術と倫理）や令和5年度（民主主義と中立）の論理構造を、生徒に身近な「SNS・ネット」というテーマにスライドさせたものです。

- **力の体系:** アルゴリズム（情報の統制）
- **利益の体系:** ネットの利便性、個人の好み
- **価値の体系:** 自分の常識、エコーチェンバー
- **相克:** 繋がり（グローバル化）と、断絶（バブル）の同時進行。

2. 設問別の解説

- **問1:** 単なる「サボリ」ではなく、島根県立大特有の「善玉・悪玉論への逃げ」として書けているかを確認。
- **問2:** 「ネット＝繋がる（プラス）」という一般論に留まらず、それが逆に「分断（マイナス）」を呼ぶという「逆説のロジック」を評価します。
- **問3:** 「誹謗中傷はやめよう」といった道徳論ではなく、「他者の意見を見て、自分の偏りに気づき、自分の考えを修正した」という**自己相対化のプロセス**を書かせることが合格への近道です。

3. 生徒への声掛け

「君が見ているスマホの画面は、君を喜ばせるようにできている。でも、そこには君が『見たくない真実』は映っていないかもしれない。島根県立大学が求めているのは、その画面の汚れを拭いて、不都合な他者の姿を直視する強さなんだ。」